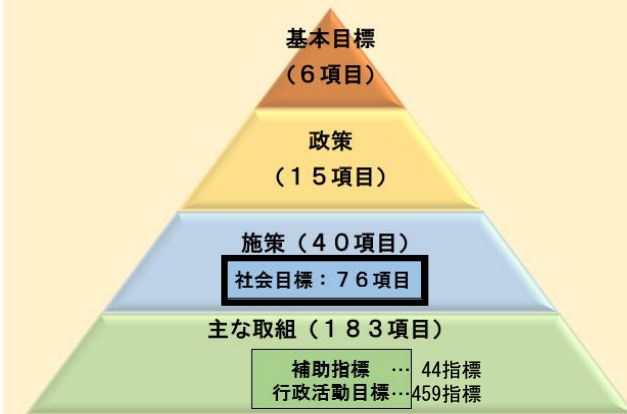


政策評価の概要

- 政策評価とは、総合計画に掲げた基本目標の実現に向けて、各施策の実施状況の把握や分析を通して課題を把握し、必要な改善を次の施策展開に反映させていく取組のことです。
- 総合計画の推進に当たっては、県民の皆様と共有・協力して実現を目指すべき具体的な数値目標として76の社会目標を掲げています。
- 評価結果については、客観性や統一性などの確保に努め、外部有識者の意見を踏まえ、とりまとめていきます。

総合計画の体系図

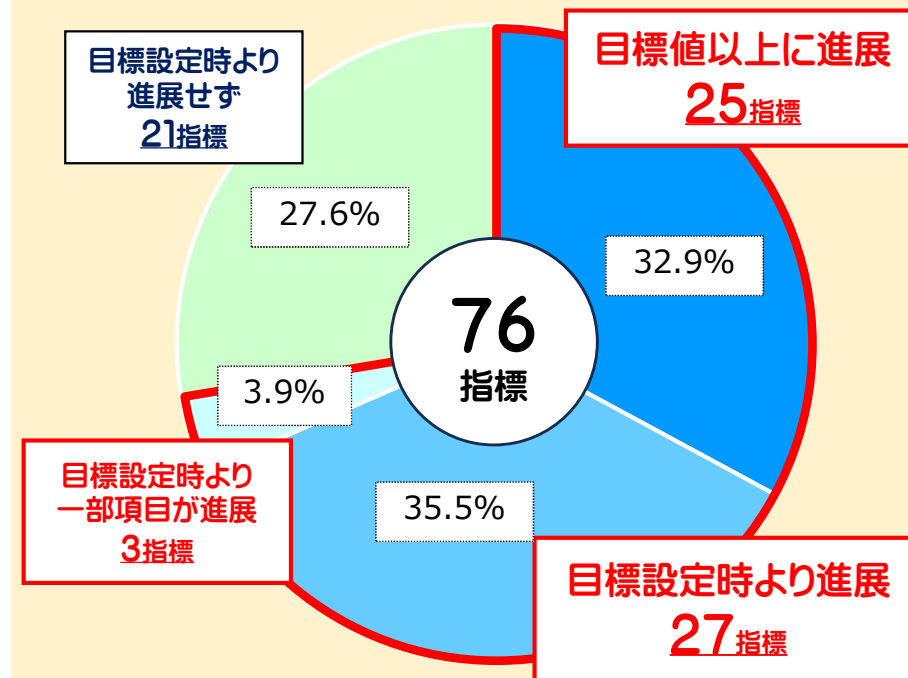


ポイント

- 計画の最終年度である令和6年度末において、76の社会目標のうち、55指標（72.4%）が目標設定時より進展し、このうち25指標は、県で設定した目標値以上に進展しました。
- 6つの基本目標のうち、進展度が高い分野は「Ⅱ 千葉経済圏の確立と社会資本の整備」「Ⅴ 誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現」で、低い分野は「Ⅲ 未来を支える医療・福祉の充実」でした。
- 各施策の成果や進捗状況を把握・分析し、必要な改善を次の施策展開に反映していきます。

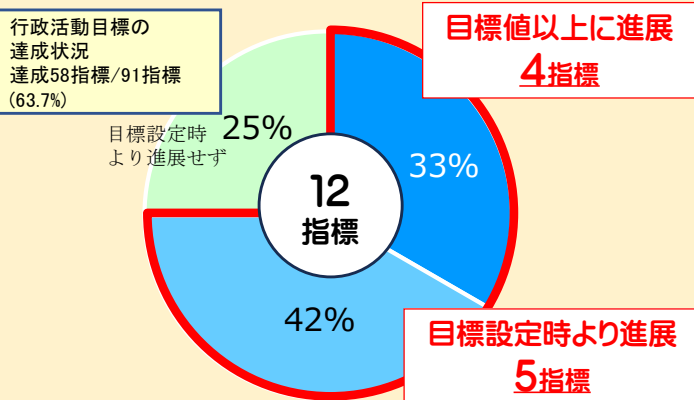
社会目標の進捗状況

※実績が未判明の22指標は、判明している最新の数値を基に「みなし評価」を行った。



社会目標の進捗状況

I 危機管理体制の構築と安全の確保

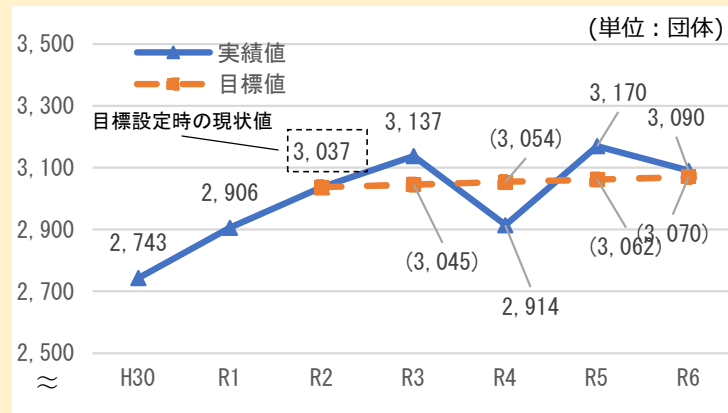


主な施策の進捗状況

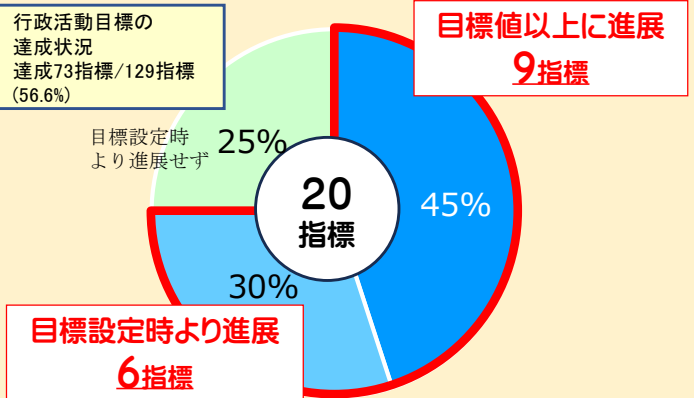
- ◆「健康危機対策研修修了者数」や「自主防犯団体の数」等において目標値以上に進展しました。
- ◆「自主防犯団体の数」については、構成員の高齢化や担い手の確保等の課題により、全国では平成29年から令和6年まで毎年減少しています。このような中、本県では令和4年から犯罪認知件数が増加に転じたことなどにより、県民の防犯意識が高まったことが、目標達成の要因と考えられます。

社会目標の具体例

施策I-3-① 自主防犯団体の数

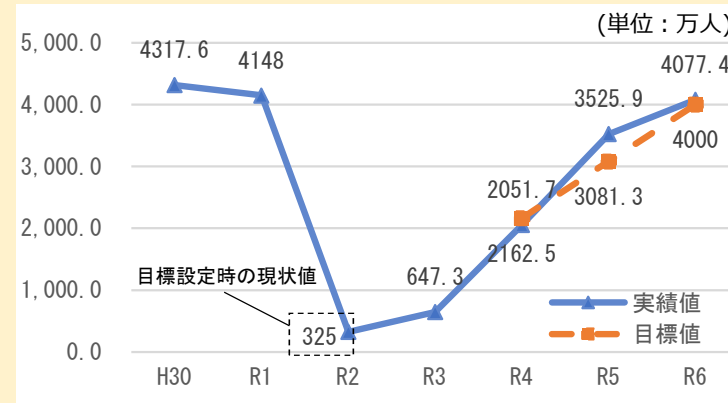


II 千葉経済圏の確立と社会資本の整備

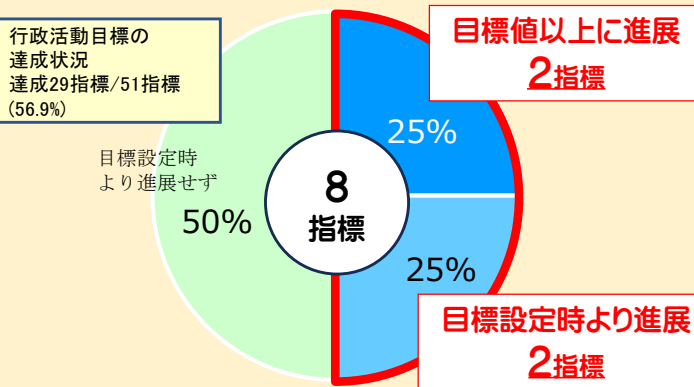


- ◆「県内への企業立地件数」や「成田空港の航空旅客数」等において目標値以上に進展しました。
- ◆「成田空港の航空旅客数」については、新型コロナウイルスの影響により325万人まで落ち込んだものの、令和6年度は5期ぶりに4千万人を超えました。これは、成田空港を利用した外国人旅客数が過去最高値更新するなど、訪日旅行需要が旺盛だったことが目標達成の主な要因と考えられます。

施策II-1-④ 成田空港の航空旅客数

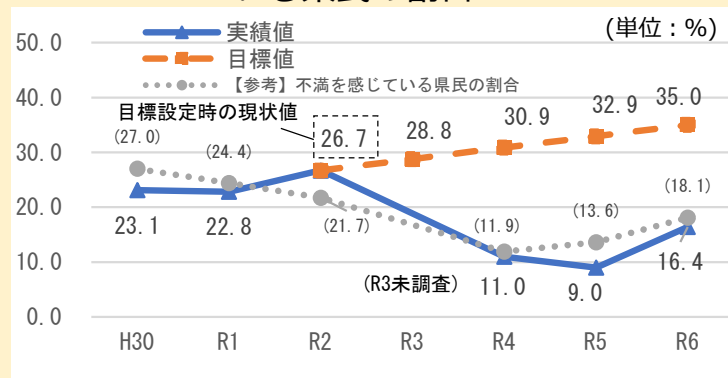


III 未来を支える医療・福祉の充実



- ◆「がんによる75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)」等において目標値以上に進展しました。
- ◆一方で「高齢者施策について満足している県民の割合」等において目標設定時よりも進展しませんでした。令和6年度の県政世論調査における高齢者施策についての設問では、65歳以上の世代では「満足」という回答の割合が「不満」を上回っているものの、40歳から64歳では「不満」が上回っており、特に現役世代において、将来の介護に対する不安などがあることが推察されます。

施策III-2-① 高齢者施策について満足している県民の割合

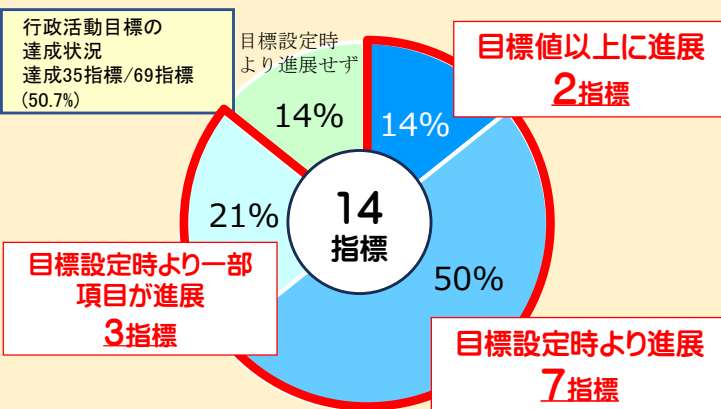


社会目標の進捗状況

主な施策の進捗状況

社会目標の具体例

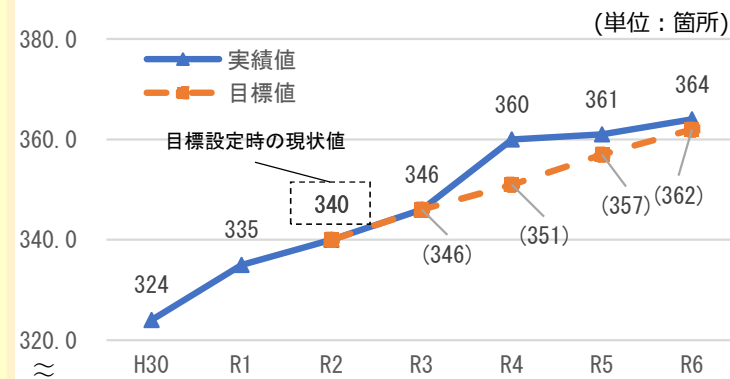
Ⅳ 子どもの可能性を広げる千葉の確立



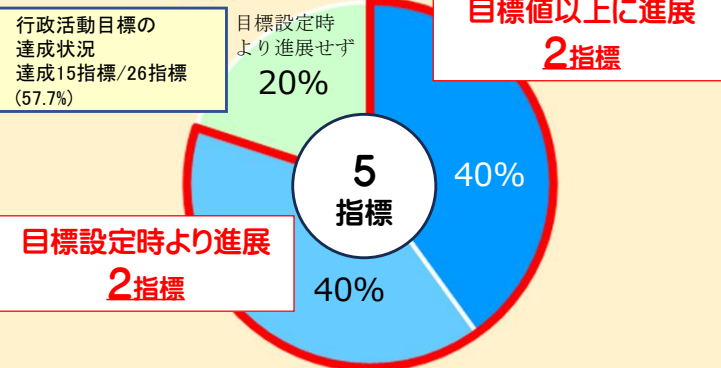
◆「地域子育て支援拠点の数」等において目標値以上に進展しました。

◆「地域子育て支援拠点の数」については、市町村が地域の実情に応じて実施する地域子育て支援拠点事業への助成を通じ、拠点の運営等に要する経費の負担を軽減することで、拠点数の増加につながったものと考えられます。

施策Ⅵ-1-② 地域子育て支援拠点の数



Ⅴ 誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現



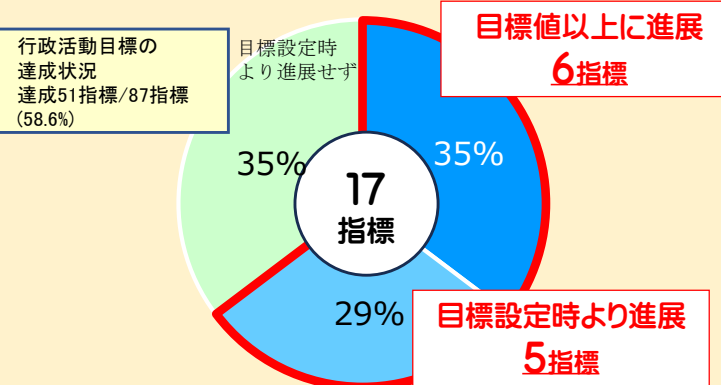
◆「「ちばSDGsパートナー登録制度」の登録数」と「地域日本語教室が開設されている市町村数」において目標値以上に進展しました。

◆「「ちばSDGsパートナー登録制度」の登録数」については、県内金融機関や経済団体等が令和4年1月に発足した「ちばSDGs推進ネットワーク」と共同してSDGsの啓発を行ったことにより、登録が促進されたものと考えられます。また、啓発物やセミナーなどを活用し、登録制度を周知したことも一定の効果があったものと考えられます。

施策Ⅴ-2-① 「ちばSDGsパートナー登録制度」の登録数



Ⅵ 独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造



◆「メディアに取り上げられた件数」や「この1年間に文化芸術に触れた県民の割合」等において目標値以上に進展しました。

◆「この1年間に文化芸術に触れた県民の割合」については、新型コロナウイルス感染症の影響による行動様式の変化をきっかけに、鑑賞・表現手段においてオンラインの活用が一層進むなど文化芸術に係る環境が大きく変化しましたが、県主催行事をはじめ各種施策に取り組んだことにより、目標を達成することができたと考えられます。

施策Ⅵ-3-① この1年間に文化芸術に触れた県民の割合

